



これからの「うすきプラットフォーム」を考える



令和4～5年度 うすきプラットフォームの振り返り

- 本プラットフォームは、分野を超えた多機関・多職種の支援関係者が集い、臼杵市の課題を共有しながら、方向性をともにし、さらなる円滑な関係づくりをめざして開催しています。
- また、このプラットフォームで共有した情報については、後日、臼杵市社協のホームページにて概要や資料等を共有し、参加者が所属する機関等での内部共有を行い、周知を図っています。



【臼杵市社協ホームページ】

| 令和4年度 | |
|------------|-------------------------------------|
| 令和4年4月19日 | 趣旨説明 |
| 令和4年5月17日 | テーマ「 <u>ヤングケアラー</u> 」 |
| 令和4年6月21日 | テーマ「 <u>地域コミュニティ</u> 」 |
| 令和4年7月19日 | <u>事例検討会</u> 「複雑化・複合化した課題への対応」 |
| 令和4年8月16日 | テーマ「 <u>障がい(児)者</u> を取り巻く環境」 |
| 令和4年9月20日 | テーマ「 <u>高齢者</u> を取り巻く環境」 |
| 令和4年10月18日 | テーマ「 <u>医療とヘルスアップ</u> 」 |
| 令和4年11月15日 | テーマ「 <u>若者サポート</u> と <u>困窮者施策</u> 」 |
| 令和4年12月20日 | テーマ「 <u>消費者被害</u> と <u>成年後見</u> 」 |
| 令和5年1月17日 | テーマ「 <u>子ども・子育て支援</u> 」 |
| 令和5年2月21日 | テーマ「 <u>孤独・孤立対策</u> 」 |
| 令和5年3月22日 | 次年度のプラットフォーム運営について |

| 令和5年度 | |
|------------|---|
| 令和5年4月18日 | 令和5年度のうすきプラットフォームについて |
| 令和5年5月16日 | テーマ「日本の <u>人口動態</u> 」と「 <u>暮らしの変化</u> 」 |
| 令和5年6月27日 | テーマ「 <u>人材不足</u> へのアプローチ」 |
| 令和5年7月18日 | テーマ「子どもが <u>子どもでいられるまち</u> に」 |
| 令和5年8月22日 | テーマ「 <u>うすきの強み</u> を考える」 |
| 令和5年9月27日 | テーマ「 <u>こどもまんなか</u> 社会」 |
| 令和5年10月17日 | テーマ「 <u>防災</u> について」 |
| 令和5年11月14日 | テーマ「 <u>免許返納</u> による地域への影響について」 |
| 令和5年12月19日 | テーマ「 <u>重層的な支援体制の整備</u> 」 |
| 令和5年1月16日 | テーマ「 <u>地域コミュニティとの協働</u> について」 |
| 令和5年2月20日 | テーマ「 <u>民間企業との協働</u> について」 |
| 令和5年3月19日 | 次年度のプラットフォーム運営について |



面積 : 291.08 K m²

人口 : 35,620人

世帯 : 16,925世帯

高齢化率 : 41.93%

※令和6年1月1日時点 (住基ベース)

【臼杵市の特徴】

- ① 豊かな「食文化」
- ② 活発な「地域活動」
- ③ 充実した「子育て環境」
- ⑤ 安心の「医療」



ユネスコ創造都市ネットワーク (食文化分野) 加盟認定

白杵市が大切に培ってきた、発酵・醸造文化や有機農業の推進などの取組が世界的にも評価。醸造・発酵産業や質素儉約の郷土料理など本市の伝統的な食文化や、有機農業や水源涵養の森づくり、地産地消をさらに推進していく。

【発酵醸造業】



みそ、しょうゆ

【質素儉約の文化】



黄飯、かやく

【循環型食文化】



白杵市土づくりセンター



日本酒、焼酎



きらすまめし



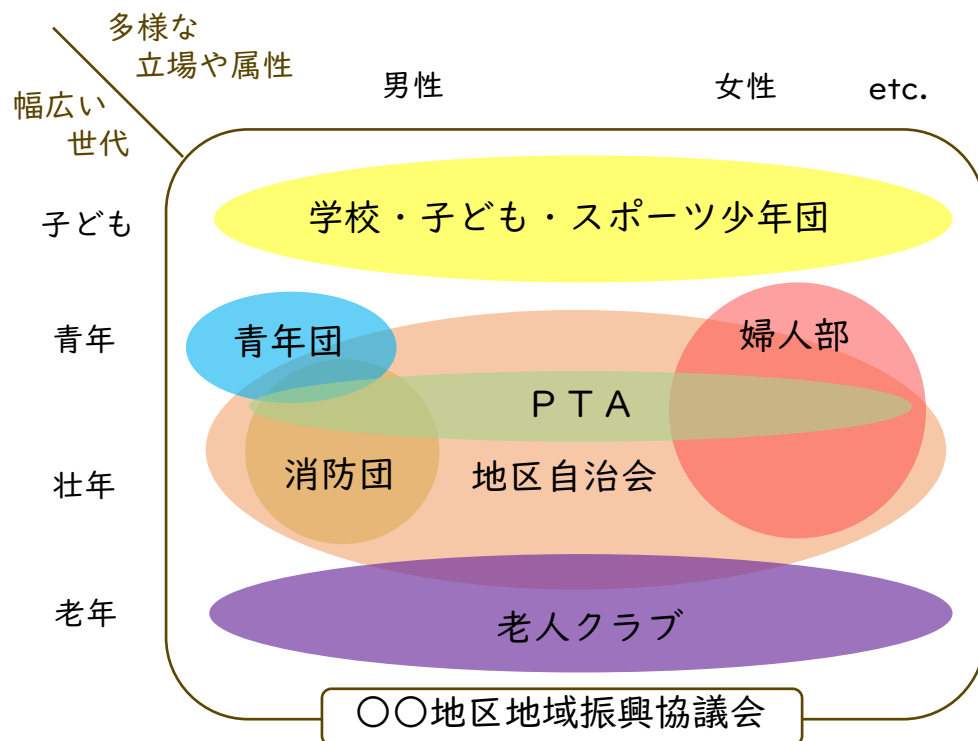
ユネスコ
食文化創造都市

白杵

UNESCO
CREATIVE CITY
OF GASTRONOMY

地区自治会を中心に住民が主体となって地域活動を担う「地域振興協議会」を全ての旧小学校区（18地区）に設立を完了しています。少子高齢化・人口減少が進んでも世代や立場、団体等の枠を超えて連携することにより、地域活動が活性化するだけでなく、身近な地域でのつながりを深め、地域の一体感や日常生活での安心感を作り上げることを目的としています。

地域振興協議会のイメージ



※ 団体名はあくまで一例であり、地域ごとに構成団体は異なります。

地域振興協議会への支援

- ・ 市役所職員が地域活動に参加（地域パートナー）
- ・ 市報などを活用した地域ごとの魅力発信
- ・ 市役所が行う各種事業で地域活動をサポート
- ・ 地域活動に対する財政支援
- ・ 地域間交流を図るための懇談会等の開催

【世代や属性を超えた多様なつながりの創出】



❀ 臼杵市の子育てに関する様々な制度 ❀

妊産婦

母子手帳・受診券の交付
妊婦歯科健診助成



妊産婦医療費助成 ←大分県内で初めて導入！
妊娠中の医療費（保険診療分）が0円

児童手当

フッ化物塗布受診券

出生



出生祝い品 出生児1人につき2万円分の市内で使える商品券を贈呈します！



子ども医療費助成 中学生までのお子さんの保険適用分の医療費を助成します！
就学前：入院・通院0円 小中学生：入院・通院0円

R4.7～小中学生
の通院も0円に
なりました！



ちあぼーと：妊娠期から18歳までの様々な相談にワンストップで切れめのない支援を行います！
・子育て中の保護者等が気軽に立ち寄れる「あそびのひろば」があります
・保健師、子育て支援コーディネーター、母子父子自立支援員、家庭児童相談員など専門員が常駐しています
・手当など子どもに関する各種行政手続きが行えます

気軽に遊びにきてね♪

子育て支援



保育所・認定こども園 保育料0円
主食費0円、副食費上限1,500円/月補助

R5.4～

一時預かり事業利用料一部助成

※市内保育所・認定こども園で利用できます
上限2,000円/回（1月あたり4回まで）

地域子育て支援拠点
（市内4か所）

病児病後児保育
広域利用可・ネット予約
サービスあり

ファミリー・サポート・センター事業
ちょっと困ったときに利用できます
（生後6か月～12歳まで）



予防接種 9つの定期接種+おたふくかぜ0円
インフルエンザ予防接種も補助あり



このマークは臼杵市独自の取組です！
詳細は下記までお問合せください♪

HPはこちら



【お問合せ先】 臼杵市子ども・子育て総合支援センター ちあぼーと
TEL：0972-86-2716（直通）



安心の医療

うすき石仏ネット

(登録者数 2万人超え)

【医療・介護機関を結ぶ
IT情報ネットワーク】

既往症、投薬内容、検査結果などを共有
→無駄の少ない安全で質の高い医療・
介護サービス

子育て支援アプリで
母子手帳の情報も追加



医療・介護施設、消防署等が連携

田舎暮らしの本〈宝島社〉

「2024年度版 全国住みたい田舎ベストランキング」

【3万人以上5万人未満のまち】

総合部門第2位

シニア世代部門 第2位

若者・単身者部門 第6位

子育て世代部門 第5位

(7年連続上位)



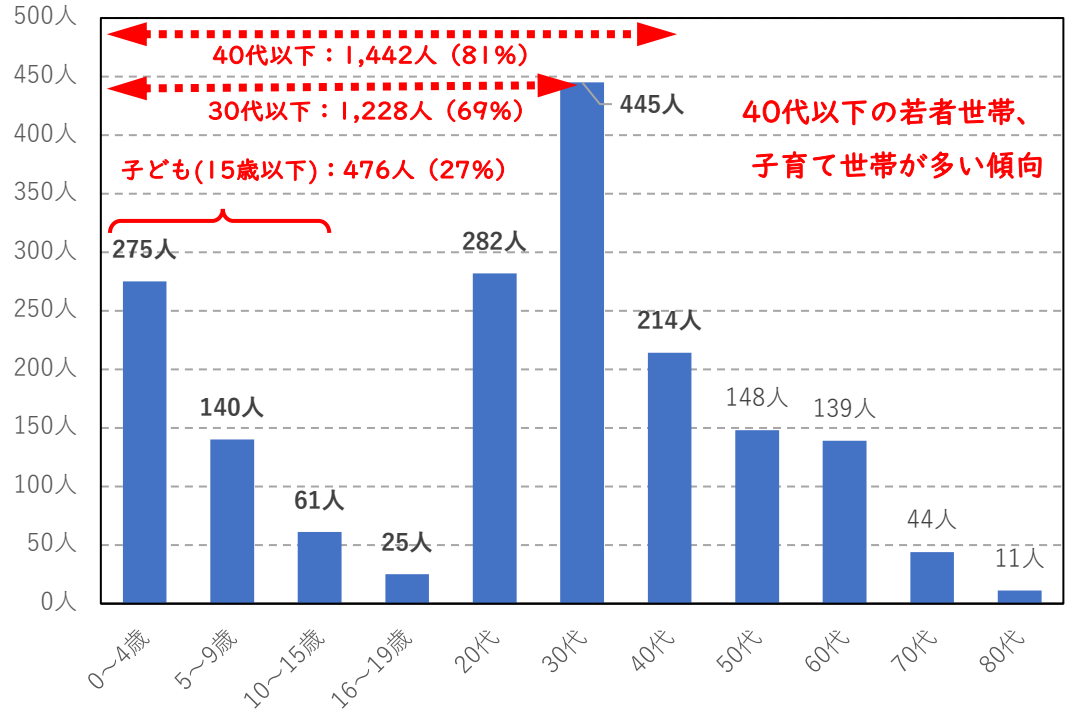
白杵市への移住の現状について

【移住者数の推移】

※移住支援補助制度を利用した移住者

| 年度 | 世帯数 | 移住者数 |
|-----------|--------------|---------------|
| H27年度 | 78世帯 | 172人 |
| H28年度 | 77世帯 | 203人 |
| H29年度 | 112世帯 | 266人 |
| H30年度 | 95世帯 | 220人 |
| R元年度 | 117世帯 | 255人 |
| R 2年度 | 104世帯 | 231人 |
| R 3年度 | 106世帯 | 226人 |
| R 4年度 | 102世帯 | 211人 |
| 合計 | 791世帯 | 1,784人 |

【移住者の年齢分布】



【年齢別人口と出生数】

(R5.3.31時点)

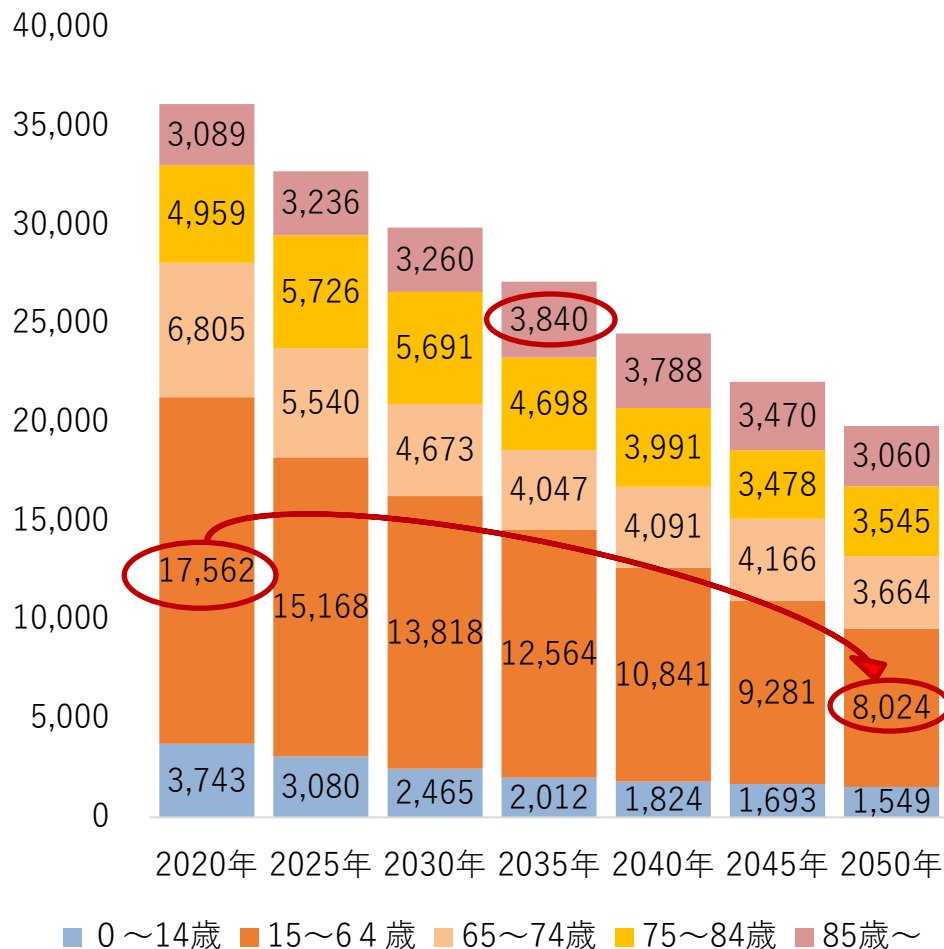
| 年齢 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10歳 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 現在の数 | 148 | 167 | 178 | 196 | 202 | 238 | 228 | 233 | 271 | 277 |
| 出生時の数 | 142 | 149 | 167 | 180 | 190 | 200 | 187 | 201 | 239 | 268 |
| 増減 | +6 | +18 | +11 | +16 | +12 | +38 | +41 | +32 | +32 | +9 |

※ 移住・定住施策の影響により、子どもの数が増えている (+215名) ことが推測される

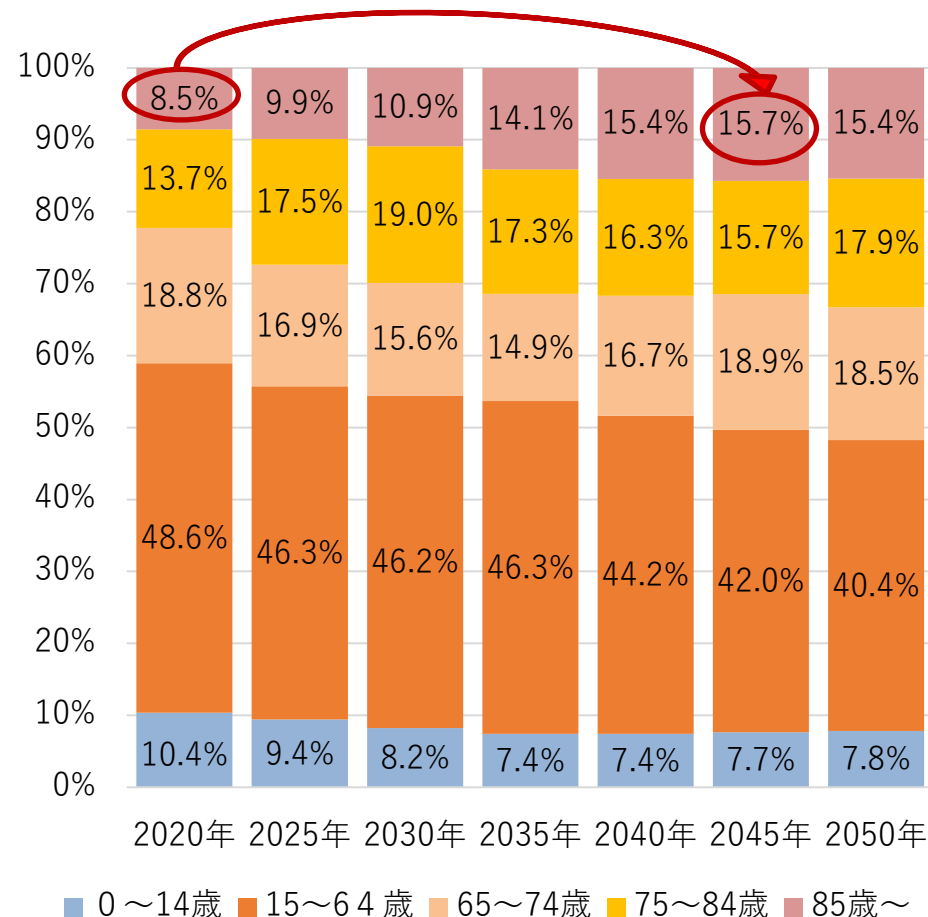
白杵市の将来人口推計について（令和5年推計）：再掲

| | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 | 2050年 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 36,158 | 32,750 | 29,907 | 27,161 | 24,535 | 22,088 | 19,842 |

【世代別の人口推移】



【世代別の構成比率】



白杵市民を取り巻く生活環境の変化と対応方針について

- 日本全体の人口減少を含め、社会全体が大きく変化していますが、日々の生活の中では実感しにくく、知らず知らずのうちに私たちの暮らしにも様々な影響が表れてきています。
- 様々な選択肢が増えている一方で、個人が抱えるリスクが多様化、複雑化しており、これまで通りの公的な制度やサービスの充実だけでは、生活する上での課題が解決しにくくなっています。
- 多様な関係者が協力し、工夫する「**参画と協働**」を推し進めることが、地域を活性化し、持続的に発展させていきます。

社会全体の変化

- ・ 平均寿命の延伸
- ・ 長期にわたる経済の低迷
- ・ 雇用慣行や労働環境の変化
- ・ **少子高齢化の進展**
- ・ 共同体機能低下（血縁、地縁、社縁）
- ・ 人生観や生活様式の変化
- ・ 対面での交流機会の減少
- ・ 成人年齢の引き下げ …等

リスクの多様化

- ・ ライフイベント（就労、進学、恋愛、結婚、出産、離別等）に伴う**想定外の環境変化**
- ・ いじめ、差別、虐待、病気、障がい、生活困窮、社会的孤立、災害、事故、感染症、加齢による衰え、家族の介護といった個別性が高く、**非定型の課題**
- ・ 様々な**生きづらさ**や**既存制度への適合しにくさ** …等

身近な課題の変化

- ・ **全産業における労働者不足**
- ・ 多様で複雑化した課題の顕在化（ヤングケアラー、ワンオペ育児、就職氷河期、望まない孤独や孤立…）
- ・ 気にかかけ、支えあう意識の減退
- ・ **地域を担う人材不足**
- ・ **将来への不安感**
- ・ 生活における課題の複雑化 …等

健康的に暮らし、無理なく参画し、協働できる「市民が主役のまちづくり」（地域力創生）

【支える力】を高めしていく

- ・ どこに相談しても、適切な支援につながる分野横断的な連携体制
- ・ 協働できる相手を増やし、多様な参画と協働の機会を増やす
- ・ つながりを通じた人材確保

多機関・多職種で地域を支える

多機関・多職種連携

白杵の将来を見据えた
参画と協働の
まちづくり

コミュニティで地域を守る

【守る力】を高めしていく

- ・ 暮らしやすく、魅力的な地域づくりと情報の発信
- ・ 移住者の増加による活性化と多様な人々の活躍の場づくり
- ・ つながりを通じた人材育成

地域連携



令和5年度 白杵市の「守り、支える」地域づくり

- ヤングケアラー、孤独・孤立、地域交通、生活支援等の地域課題への対応が求められており、単独の機関や部署による支援だけでは、市民の暮らしを支えられない状況が生じている。
- 既存の機能や機構、人材、財源、情報、ノウハウ等を重ね合わせ、それぞれの分野だけでは解決や伴走が困難な課題に効率的・効果的に対応できる地域づくりを目指す。また、白杵市という地域全体をフィールドにした連携を展開することにより、地域の持続的発展を支え、地域の一体感や日々の安心感を醸成していく。

地域を支える

【既存の会議体との連動】

- ・ 要保護児童対策協議会
- ・ 自立支援協議会（障がい）
- ・ 自立支援会議（困窮）
- ・ 白杵市Z会議（医療介護）
- ・ 地域ケア会議
- …等

医療
介護
福祉
…



備え／予防

連携基盤

うすきプラットフォーム

～ 分野を問わず、課題や方向性を全体共有 ～

クロスファンクショナルチーム（CFT）

課題ごとにCFTを随時編成し、機動性を高める
（例：地域交通、人材不足、ヤングケアラー、孤独・孤立対策等）

心豊かで、笑顔のゆきかうまちを
守り・支える仕組みづくり

相談支援
生活支援
就労支援



地域づくり

生活基盤

地域住民（303行政区の自治会）

18旧小学校区ごとの地域振興協議会（RMO）

地域振興懇談会

白杵ブロック連絡会

野津ブロック連絡会

【多様な主体による参画と協働】

- ・ 民間企業（銀行、郵便、通信…）
- ・ 教育分野
- ・ IT分野
- ・ 防災分野
- ・ 若者世代
- …等

地域を守る

「地域共生社会の実現」について

- 地域共生社会の実現は、平成28年6月2日に閣議決定されたニッポン一億総活躍プランに盛り込まれ、「子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する。」とされた。
- こうした福祉的な要素のみならず、「全ての人々が包摂される社会が実現できれば、安心感が醸成され、将来の見通しが確かになり、消費の底上げ、投資の拡大にもつながる。また、多様な個人の能力の発揮による労働参加率向上やイノベーションの創出が図られることを通じて、経済成長が加速することが期待される。」とされており、日本の経済成長の隘路である少子高齢化に真正面から立ち向かうための広義での経済政策としての方向性も併せ持った考え方である。



社会全体の変化に対応するための「地域づくり」の中・長期的な展開（一例）

社会全体が変化しており、これまでの通りの取組を延伸するだけでは「市民の暮らし」を支えることが困難です。地域住民を含む多様な関係者が有機的につながり、方向性を共有し、わがまち白杵の地域づくりに参画し、協働していくことが、白杵市の発展的な持続可能性を高めていきます。

